

高砂香料工業株式会社平塚研究所訪問

学生役員 網中康平

◆訪問者

- 網中康平（多々見・飯島研究室）
- 野上周嗣（跡部研究室）
- 内藤有貴（跡部研究室）
- 三上莉桜（跡部研究室）
- 藤田志保（大山研究室）
- 古味百子（大山研究室）
- 高野竜未（大山研究室）

◆概要

2019年9月13日、高砂香料工業株式会社の平塚研究所を見学させていただき、本学OBである田沼健司様に研究所および、私たちの先輩としてのお話を伺いました。田沼様は本学において、浅見研究室（現：伊藤傑研究室）に所属し、有機合成について研究されておりました。高砂香料工業株式会社に就職されてからも、香料の新規素材開発という有機合成を中心としたお仕事をされています。

◆高砂香料工業株式会社について

高砂香料工業株式会社は1920年の創業以来香料業界のリーディングカンパニーとして様々な香料やそれに伴う技術を提供しています。

事業は大きく4つに分かれており、食品や飲食向けのフレーバー部門、香水や化粧品、家庭用品向けのフレグランス部門、これらのもととなる香料素材を開発するアロマイングリディエーツ部門、不斉合成技術をもちいた医薬品中間体や機能性材料を提供するファインケミカル部門があります。

高砂香料株式会社は1983年1-メントールの不斉合成技術の工業化に成功し、主力商品となっています。また、この技術はクリーンでナチュラルな香りの特徴とする光学活性なスペシリティ素材の開発に現在も広く応用されています。

現在は世界27の国と地域に拠点をグローバルな香料会社として地域の文化や嗜好性、市場を見すえた信頼される製品を供給し、革新的な技術力によってより豊かな社会の実現に貢献しています。

◆田沼様と香料の出会い

まず初めに高砂香料工業株式会社および平塚研究所について企業紹介ビデオとともにご説明いただき、田沼様と香料の出会いについて話していただきました。お話の中では、エステル化前後の化合物や高砂香料の主力製品である1-メントールなど、様々な化合物のにおいを実際に嗅がさせていただきました。また、授業で学んだこととのつながりや日々の生活との関わりを交えながらお話いただき、研究活動と実社会の関わりを強く認識することができました。

香料会社を選ばれた理由として田沼様は、自分の作った化合物をにおいによって自身ですぐに確かめられるということをあげられておりました。私自身も自分の感覚でとらえられる反応が好きで化学を選んだため、非常に共感でき、これから自身が就職活動を行ううえで参考になりました。

その後、社員食堂にて談笑を交えながらお昼ごはんをご馳走になりました。食事のサポートや生活環境など、普段は聞けない福利厚生面のお話はこれから就職を控えるうえで非常に身近で、ためになるものでした。

◆研究所見学

午後は研究所全体の見学及び、田沼様が所属する研究室の内部を見学させていただきました。先述のように高砂香料工業株式会社には4つの大きな事業があり、それぞれのグループで研究所内の匂いが異なるのがとても印象的でした。また、合成、分析など香料を作るための実験装置だけでなく、フレグランス部門には洗面所や洗濯環境、フレーバー部門には香料を添加した食品や飲料を作製できる装置など、実際に香料が使用される場面に即した環境が整備され、スケールや実用品との近さといった点で大学研究と企業研究の違いを感じました。

研究所にはガスクロマトグラフィーで分離した成分のにおいを嗅ぎながら測定できる「匂い嗅ぎGC」という装置や、モニターが集まり感想をマッピングする部屋、人間の脳波とのかかわりを調査する部屋など、人間の感覚と化学的数値を組み合わせている

ことに驚き、人間の感覚の重要性を感じました。

その後、田沼様の所属するアロマイングリディエ
ンツ部門の研究室の見学をさせていただきました。
素材の開発部門ということもあり、合成、分析機器
も知っているようなものが多かったため、一番親近
感がわき、将来がイメージしやすかったです。その
中でも、大きな合成装置や二酸化炭素による消火設
備、自動のカラムなど、スケールの違いや安全管理、
装置の時間効率など大学研究と企業研究の違いを感
じました。今まで企業研究のイメージはほとんど持
てなかったのですが、研究所内の設備について詳細
に説明していただき、自分の将来と照らし合わせて
見学を行うことができました。

◆ OB 訪問を終えて

今回のOB 訪問を通じて、今まで知ることのでき
なかった企業の姿や社員の生活、企業での研究と知
ることができ、貴重な機会となりました。研究室に
所属し、最先端の研究に携わるようになったなか、
自分の将来を今の生活や研究と紐づけながら深く考
えることができました。

将来についてはまだまだ不安な点も多いですが、
自身の夢のためにこれからもたゆまぬ努力を続けて
いきたいと改めて感じました。

最後にお忙しい中このような機会を設けてくだ
さった田沼様、また高砂香料工業株式会社の皆様に
厚く御礼を申し上げます。

日産自動車株式会社新車生産準備技術センター

学生役員 野上周嗣



◆訪問者

- 野上周嗣（跡部研究室）
- 三上莉桜（跡部研究室）
- 佐藤良彦（藪内研究室）
- 松崎魁人（藪内研究室）
- 佐藤琢郎（藪内研究室）

◆概要

2019年9月24日、厚木にある日産自動車の新車生産準備技術センターにお邪魔しました。本学の卒業生である齊藤公俊様にご対応いただき、社内の様子やご自身の職歴などについてお話を伺いました。齊藤公俊様は現化学会会長である横山会長の研究室のご出身で当時の研究室の様子も話題に上がりました。

◆日産自動車株式会社について

日産自動車は1933年創業の大手自動車メーカーです。現在はフランスの自動車会社、ルノーと提携しています。ミッションとして「独自性に溢れ、革新的な車やサービスを創造し、その目に見える価値を提供する」と掲げています。日本車の技術向上に大きく貢献する成果を多数残しており、「技術の日産」として親しまれています。国内に向けた「Nissan」ブランドだけでなく、海外向け高級ブランドの「Infinity」と低価格ブランドの「Datsun」を展開しています。

◆企業訪問

厚木にある新車生産準備技術センターは、その名の通り新型車両の開発を行っている施設です。敷地内には無料バスが走っており敷地の広さに驚きました。デザインを重視した建物も多く見かけられ、齊藤様は近年力をいれているブランディングの一環だとおっしゃっていました。

ご自身の職場である日産テクニカルセンターにお招きいただき、お話を伺いました。齊藤様は様々な部署の経験がおありで、複数の視点で日産自動車について教えていただきました。例えば、企画総括部では、各部署からの戦略を取りまとめる経験をされていて、「視座を高めるきっかけになった」とおっしゃっていました。この経験は、理科系の私たちにとって目新しく貴重なものでした。また、検具技術部では、主に安く質の高い仕事を請け負ってくれる企業の探索を行っていたそうです。大手自動車メーカーという企業ならではの仕事だと感じました。

さらに企業内部の異動についても伺いました。フリーエントリー制度などの仕組みについて知ることができ、企業で働くことへの安心感を得られました。

最後に私たちに向けて、「あこがれの人を持って」というアドバイスを送っていただきました。その人に近づこうと思うことが一番のモチベーションになるとおっしゃっていました。齊藤様も学生時代は横山会長をあこがれの人として努力なさったそうです。

◆企業訪問を終えて

普段は立ち入ることのできない企業の敷地に入れていただき、企業の雰囲気を感じることができました。また、様々な部署での具体的な業務など、貴重なお話を聞くことができました。

齊藤様を始め、今回のOB訪問のためご尽力下さった方々に御礼申し上げます。